

不妊についての正しい情報を知ろう

はじめに

不妊症とは「生殖可能な年齢にあり正常な性生活を営んでいる夫婦が、避妊を試みないで一定期間を経ても妊娠が成立しない状態」をいいます。不妊期間の定義は国や機関で異なり、欧米諸国では1年以上としている国が多く、我が国では2年と定義されています。

現在、我が国では、10組に1組の夫婦(約140万人)は子どもが授からない・生まれない状態にあり、出生児の55人に1人(年間約1万9千人)が高度生殖補助医療にて誕生しているとされており、不妊はごく身近な問題となっています。

2005年度実績 日本産科婦人科学会発表のデータ

不妊の主な原因

不妊は増加しています

近年、不妊症が増加している背景として女性の晩婚化と晩産化が指摘されています。なぜ女性の晩婚化や晩産化が不妊の原因となるのでしょうか。

女性の妊孕性(妊娠する力)は、30代前半から少しずつ低下しはじめ40代になると妊娠率は顕著に低下します。その理由は、妊孕性は卵巣内の卵の質と関係があるためです。そのほか加齢とともに子宮筋腫や子宮内膜症、子宮がんなどの婦人科の病気も起きやすくなることも指摘されています。

生活習慣との関連が多く報告されています

最近では、生活環境や生活習慣との関連も指摘されています。仕事や職場、生活の基盤である地域や家族関係、家庭内などにおけるさまざまなストレス、関心の高いメタボリックシンドロームやまた間違った認識によるダイエットなど過度の肥満や瘠せ、受動喫煙を含む喫煙習慣や過度の飲酒なども不妊の原因と関連していることが報告されるようになって来ました。

また男性の精子の減少や勃起障害(ED)、射精障害も原因として挙げられ、セックスレスカップルの増加やセックス回数の低下を指摘する報告もあります。さらに、近年の性交開始の低年齢化に伴うクラミジア感染症などの性感染症の増加も関連があることも報告されています。

不妊は女性だけの問題ではありません

妊娠は、排卵・射精・受精・着床の4つの条件のどれが欠けても成立しません。不妊症の原因は、男性側・女性側・その両方の原因となるものがあり、その割合は、女性側によるものがおよそ1/3、男性側1/3、両者によるものが1/3と報告されています。



不妊治療の実際

不妊治療は段階を追って進められます

夫婦が不妊治療を望んだ場合には、最初は基礎体温の測定や精液検査などの基礎的な検査を行い、同時に卵胞の発育状態、排卵や子宮内膜の状態を観察し問題点を確認していきます。その後、性交のタイミング指導や薬物による排卵誘発、黄体ホルモン療法、人工授精などの一般不妊治療を行うことで、排卵から受精、着床の過程をサポートしていきます。

また、一般不妊治療で2年以上妊娠しない場合や、無精子症や卵管閉鎖など一般不妊治療での妊娠が難しい場合には、体外受精・胚移植などの高度生殖補助医療を行うこととなります。

不妊治療はさまざまな悩みを生じさせます

このように基本的な検査から段階的に進められる不妊治療は、治療を受けている当事者に多くの悩みを生じさせます。

妊娠を拒む年齢の壁、不妊治療を行っても妊娠するとは限らない現実、検査・処置に伴う痛みや排卵誘発の副作用などの身体的な負担、検査・治療が月経周期に応じて行われることによる時間的な制約、高度生殖補助医療における高額な医療費、そして治療を受ける・受けないといった意思決定が当事者本人夫婦に委ねられることになり、わが子を持ちたいという願いと治療に対する身体的・心理的・社会的負担との間で精神的な苦痛や苦悩を生じさせます。

さらに、不妊治療はたとえ男性に不妊の原因があっても生殖に関わる治療ゆえ、処置が女性の体に施されることになるため、女性に直接的な負担がかかることになり、特に女性が多くの精神的ストレスを抱えることとなります。

いっしょうけんめいやっているのに・・・

毎日が辛い・・・
どうしたらいいの？

なんでわたしだけ・・・

誰にも、こんな悩みはいえない・・・



不妊はさまざまな問題を抱えています

近年、不妊を取り巻く環境はさまざまな問題を抱えています。

まず生殖補助医療の進歩により、高齢出産や多胎妊娠などのハイリスク出産が増えることが挙げられます。近年の産科医不足やNICUの受け皿などとも関連し深刻な社会問題に発展しています。

また、第三者からの精子・卵子・胚の提供により子を授かることが可能となり、生まれてくる子の人権や出自の問題も議論されています。さらに、法制度として戸籍の問題も解決されていません。

そのほかにも、最近では不妊治療により出産された方の虐待や育児困難を訴えるケースとの関連が報告されたり、不妊治療が引き起こす夫婦の関係性への影響、さらに実父母・義父母との家族関係の問題に発展したり、自身の生きがいやアイデンティティの確立との関連性について言及されるようになってきました。

私たちにいまの思いを聞かせてください

不妊治療についての正しい知識を得て
ひとりひとりのかけがえのない人生を

自分らしく、豊かに、幸せに

暮らしていきたいですね

私たちは、生まれる子（生まれた子）・夫婦へのケア（妊娠や育児の継続的な支援）、子を得られない夫婦の継続的な支援を行いたいと考えています。

妊娠や出産がGOALではなく競争でなく
人生の先にある幸せ（自分らしさ）
自分らしくがあたりまえの社会に
子を社会のみんなで育てることができる社会に

不妊や不妊治療に関するご相談は、下記の連絡先までお問い合わせください。

◆連絡先◆

トータルライフケアサポート どいいむ

〒227-0062

神奈川県横浜市青葉区青葉台2-11-2

☎ 045(982)2127

e-mail : office@doriim.com

不妊カウンセラー 専門健康心理士 割田修平

不妊カウンセラー 助産師 割田節子

不妊を知ろう

自分らしく生きていくために



トータルライフケアサポート どいいむ



さろん・どいいむ 東急田園都市線青葉台駅前（徒歩3分）

結婚・妊娠・出産・育児 そしてすべてのライフステージをサポート

トータルライフケアサポート どいいむ 予約・お問合せ 045(982)2127
ホームページ どいいむ・とっとこむ <http://www.doriim.com/>
E-mail : office@doriim.com 予約受付担当 割田修平（わりたしゅうへい）